

事務事業名	職員綱紀委員会事務				担当	総務部 総務課 人事給与係			
政策名	G	効率的で市民にわかりやすいまちづくり				電話番号	0285-83-8099		
施策名	2	組織の適正化と人材の育成				☐ 実施計画上の主要事業			
基本事業名					事業期間	☐ 単年度のみ			
法令根拠	地方公務員法、真岡市綱紀委員会規程真岡市職員倫理条例真岡市職員倫理規程					☒ 単年度繰返（開始年度 昭和57 年度～）			
予算科目	1. 一般会計	2. 総務費	1. 総務管理費	2. 人事管理費		☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
事業概要	市長の諮問に応じて、職員の表彰や職員倫理に違反した場合は地方公務員法等に準じて審議し、市長に答申している。 会長：副市長、副会長：総務部長、委員：市民生活部長、健康福祉部長、産業環境部長、建設部長、会計管理者、議会事務局長、教育次長をメンバーとして開催している。 市長は、報告に基づき、表彰や懲戒処分を行う。								

1. 現状把握の部 （1）事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 27年度実績 綱紀委員会を開催し、永年勤続職員表彰該当者について調査・審議し市長に報告した。 28年度計画 27年度に同じ。				⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移 名称 単位 24 年度(実績) 25 年度(実績) 26 年度(実績) 27 年度(実績) 28 年度(見込) ア 綱紀委員会の開催回数 回 1 1 1 1 1 イ 懲戒処分を受けた職員数 人 0 0 0 0 0 ウ エ オ						
②対象（誰、何を対象にしているのか）＊人や自然資源等 一般職員				⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移 名称 単位 24 年度(実績) 25 年度(実績) 26 年度(実績) 27 年度(実績) 28 年度(見込) ア 職員数 人 485 474 470 467 470 イ ウ エ オ						
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 職員の士気高揚と綱紀粛正。				⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移 名称 単位 24 年度(実績) 25 年度(実績) 26 年度(実績) 27 年度(実績) 28 年度(見込) ア 審査した職員の数 人 37 32 41 24 15 イ 表彰対象とされた職員の数 人 37 32 41 24 15 ウ 懲戒処分を受けた職員の数 人 0 0 0 0 0 エ オ						
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 職員の綱紀粛正と士気高揚を図り、仕事へのやる気を喚起することにより、効率的な行政運営につなげる。				⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移 名称 単位 24 年度(実績) 25 年度(実績) 26 年度(実績) 27 年度(実績) 28 年度(見込) ア 士気の高揚と綱紀粛正が促された職員の割合 % 100 100 100 100 100 イ ウ エ オ						
(2) 総事業費の推移				単位	24 年度(実績)	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
			県支出金	千円	0	0	0	0	0	
			地方債	千円	0	0	0	0	0	
			その他	千円	0	0	0	0	0	
			一般財源	千円	0	0	0	0	0	
			事業費計（A）	千円	0	0	0	0	0	
	人件費		正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	
			延べ業務時間	時間	10	10	10	10	10	
			人件費計（B）	千円	42	41	42	42	42	
			トータルコスト(A)+(B)	千円	42	41	42	42	42	
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等										
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？		職員の士気の高揚と綱紀の粛正を図るため。								
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは 5 年前と比べてどう変わったのか？		公務員としての自覚、公務員の倫理意識、職員の法令遵守等さらに市民の模範となることがより強く求められている。								
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？										

2. 1 次評価の部 ＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	☒ 結びついている ☐ 見直し余地がある 表彰は職員の励みとなる。倫理・法令等違反行為については、公正な立場から調査審議し、再度同じようなことが繰り返されないよう対応している。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	☒ 妥当である ☐ 見直し余地がある 業務の遂行、組織の維持発展のため、士気の高揚と、綱紀の粛正を図ることは、自ら行わなければならない。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	☒ 適切である ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある 士気の高揚と綱紀の粛正を図っている。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある 諮問に応じて職員綱紀委員会で調査・審議している。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響がある ☐ 影響がない 職員表彰等の審査機関がなくなる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	☐ 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） ☒ 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	☐ 他の事業と統合・連携ができる ☐ 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 事業費はない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか（アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 委員会開催のための人件費である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	☒ 公正・公平である ☐ 見直し余地がある 行政内部の事務のため、受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☐ 見直し（ ☐ ：目的妥当性 ☐ ：有効性 ☐ ：効率性 ☐ ：公平性） ☐ 統合 ☒ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の 2 次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足（説明責任不充分） ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																						
			削減	維持	増加																				
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
(2) 2 次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																									
(3) 2 次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他 2 次評価会議で指摘された事項																								